

登録コード	L2432200	開講年度	2026				
担当教員	伊藤 尽			副担当			
授業科目	英語史						
英文授業名	History of the English Language						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				英語の通時的な理解の基礎を身につけた上で、過去の表現や意味が現代にも生き続けていることを実感しながら、英語の運用能力（理解と発信）を駆使できるようになる		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	初期近代英語以降の英語を通時的に概観します 特に、中世までのゲルマン語の持つ特徴が徐々に変質していくことで、今日の英語の言語学的特質をどのように捉えるべきか、自分の考えを批判・客観的に構築するだけでなく、実証的論拠を持つ自論を展開できるような知識と応用力を身に付けることを目標に、通時的英語学の実践的な習熟を目指します						
授業計画	1回：オリエンテーション 授業の進め方と参考文献紹介 2回：初期近代英語について（1） Modern であるとはどのようなことかを理解します（本講義の大前提） 3回：初期近代英語について（2）シェイクスピアのテキストから、初期近代英語の特徴を見つけよう 4回：初期近代英語の音声、統語論、形態論、語彙 5回：初期近代英語を作り上げた人：17世紀の英語について 6回：...それでも、ただし『欽定訳聖書』は忘るべからず 7回：近代英語の流れは「自由闊達」から「規範重視」へ 8回：BullockからSwiftへ：綴り字と文法について 9回：Johnson's Dictionaryの何が特別なのかを理解する 10回：アメリカ英語の独立以前と以後について考える 11回：いつから？ 助動詞doの謎 12回：動名詞なのか現在分詞なのか？ -ingの過去と未来 13回：インターネットと文体の問題 14回：目に見える階級社会と目に見えない階級社会の英語の場合 15回：総論と復習 最終講義の際に授業アンケートを実施します						
成績評価の方法	毎回のセルフエヴァリュエーションとリアクションノーツ（20％） 最終期末レポート（80％） 総合的に評価します						
成績評価の基準	具体的な学習活動が書かれていれば水準と見なします 具体的な学習活動の内容と自己評価に適切な関連性があればやや上にあると見なします 具体的な学習活動に加え、リアクションノーツがそれとの関連から記載されればかなり上と見なします 具体的な学習活動に、リアクションノーツに客観的な関連性が認識されていれば卓越していると見なします レポートの基準は以下のとおり 具体的な論拠が、正しい書誌事項とともに記されているとき、水準と見なします 先行研究についての適切な批判データを載せることができているとき、やや上にあると見なします 先行研究を踏まえた上で、自説を述べてあればかなり上にあると見なします 自説を論じる際に、複数の視点で検証を続けている場合、卓越していると見なします						
事前事後学習の内容	事前学習として参考文献をあらかじめ読んで授業に臨むことが望ましいです 事後学習は、授業で興味を覚えた事柄について自分で調べてみるが含まれます。セルフエヴァリュエーションとリアクションノーツの執筆もここに含まれます						
履修上の注意	セットテキストがなく、自分で自分の学習のために参考文献を読まねばなりません その際に、図書館にあれば何でもよいわけではなく、授業内で紹介した参考文献を読むことが推奨されます もし紹介されていなくても、自分にとって興味深い内容を持った本を見つけた場合は、そのように連絡をしてフィードバックしてください また、講義へのフィードバックをコメントシートに書いて貰いますので、毎回の出席後に提出して下さい なお、野津先生の古典語、護山先生のサンスクリット語、磯部先生のドイツ語史の授業のどれか一つでも履修すると、この授業の内容がさらに深まります						

質問、相談への対応	基本的に、リアクションペーパー（セルフエヴァリュエーション）によって受け付けます それ以外の内容についてはアポイントメントをとってください。対面もしくはZoomで対応します メールアドレスは人文学部履修案内に記載
教科書	既述
参考書	【欧文】 Aitchison, Jean. 2013. Language Change: Progress or Decay?, 4th ed. Cambridge UP. 978-1107678927 Bauer, Laurie and Peter Trudgill, eds. Language Myths. London: Penguin, 1998. ISBN 978-0140260236 Baugh, Albert C. and Thomas Cable. A History of the English Language. 6th ed. London: Routledge, 2013. ISBN 978-0415655965 Bragg, Melvyn. The Adventure of English: The Biography of a Language. New ed. Sceptre, 2004. ISBN 978-0340829936 Crystal, David. 2011. Internet Linguistics. Routledge. ISBN 9780415602776 ---. 2017. Making Sense: The Glamorous Story of English Grammar. Profile Books: ISBN 978-1781256022 Freeborn, Dennis. From Old English to Standard English, 2nd ed. Basingstoke: Palgrave, 1998. ISBN 978-0-333691555 Jespersen, Otto. 1954. A Modern English Grammar on Historical Principles. 7 vols. Otto Jespersen Collected English Writings. London: Routledge, 2006. ISBN 978-0415402491, 978-0415402507, 978-0415402514, 978-0415402521, 978-0415402538, 978-0415402545, 978-0415402552 Hogg, Richard and David Denison, eds. A History of the English Language. Cambridge: CUP, 2006. ISBN 978-0521717991 Singh, Ishita. The History of English: A Student's Guide. London: Hodder Education, 2005. 【邦文】 アルバート・ポー、トマス・ケイブル共著、永嶋大典訳『英語史（第3版）』研究社、1980. 宇賀治正朋著『英語史』現代の英語学シリーズ8 開拓社、2000. 唐澤一友著『英語のルーツ』春風社、2011. 下宮忠雄著『歴史比較言語学入門』開拓社、1999. 寺澤盾著『英語の歴史：過去から未来への物語』中公新書、2008. 中尾俊夫、児馬修共著『歴史的にさぐる現代の英文法』大修館書店、1990. メルヴィン・ブラッグ著、三川基好訳『英語の冒険』角川アーティストハウス、2004. メルヴィン・ブラッグ著、三川基好訳『英語の冒険』講談社学術文庫、2008. ISBN 978-4061598690 H. ブラッドリ著、寺澤芳雄訳『英語発達小史』岩波文庫、1982. 堀田隆一著『英語史で解きほぐす英語の誤解：納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、2011. W. B. ロックウッド著、永野芳郎訳『比較言語学入門』大修館書店、1976. その他、授業内でも紹介します。